



2月1日初聖体。神の祝福をあびて

島のひかり ホームページアドレス
<http://lifeaidgoto.jp/cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会
 広報委員会
 五島市平蔵町2716
 TEL 0959-00072
 印刷・(株)才津印刷所

シノドスを終えて

主任司祭 岩崎 晋吾

シノドスの準備と会期を終えて、先日三月十七日の信徒発見の一五〇周年の記念日にシノドスの提言が公布されました。すでに皆さんのご家庭にも配布いたしました。その内容を見て、どう感じられましたでしょうか。皆さんの感想をお聞きしたい気もしています。

シノドスの会議が進む中、「信徒の教会離れ」を切り口に会議が行われていったようです。私は、これからの長崎の教会を考えるシノドスであるにもかかわらず、少し狭いテーマに絞られていかれたなと感じました。教会離れを問題にするならば「教会の教会離れ」つまり今の長崎の教会共同体が、キリストの共同体からどれほど離れているかを見極めて、これからの教会改革に取り組んでいくものだと思います。それは、現在の教会の体質全体が問題になるものだと考えていました。離れ

た信徒に帰ってきてもらうという切り口になると、どうしても教会内の問題に焦点が置かれていきます。どのように離れて行った信徒を迎えるかという信仰のあり方、共同体の姿勢や環境づくりになっていきます。

教会は、もっと教会内外の境を越えてこの社会の中で生きて行くための奉仕者として、どうあるべきかに視点を移していく時に来ています。特に、悩み苦しむ人々と共に生きる教会へ生まれ変わっていく時が来ているのです。

「外じゃなくてまず中をちゃんとしないと」という声も聞きます。けれども私は、外へちゃんと向かわないので、中がちゃんとしないのだと思っています。本来、外へ向かって生きる福音の流れが滞っているので、教会内によどみができているのです。そして、そのよどみに嫌気や空しさを感じて教会離れが起きているとも考えられます。シノドスの提言が、今の時代に適うよう成長する事を祈ります。

平成二十七年
度
小教区信徒総会

桜満開の四月五日、小教区信徒総会が二番ミサ後に行われた。例年同様、内容は前年度の行事内容・収支報告及び今年度の行事予定・収支予算であった。

二十六年度の小教区で大きかった行事の一つに、小教区四十五周年記念式典が挙げられる。

経済問題委員会から事業収支内訳の説明と、信徒負担金に対するの協力・感謝が伝えられた。また、壮年会では教会内椅子の塗装完了、女性会では名称変更に伴う活動内容の見直し、シメオン・アンナ会は植木の剪定と地区行事でのボランティア、福祉部会は送迎ミサと音訳活動色々活動をし、新たに実施した年であったと思う。

新役員も決まり、新たな体制で活動する今年度も小教区一体となって、活動していければと思います。

平成27年度 浦頭小教区評議会役員名簿

評議会会長(主任司祭) 岩崎 晋吾		信仰教育委員会 委員長 入口 明宏 副委員長 鍋内 秀喜 会計 鍋内 総長 委員 (小学校) 浜崎 毅 (中学校) 入口 庄二 修道院長 Sr木口 松枝 カテキスタ Sr田端 (小1、2年) Sr大水 (小3、4年) Sr藤原 (小5、6年) 岩崎神父様 堅信組	
議長 本村 義則 副議長 鍋内 秀明 書記 入口 信隆 会計 浜口 幸隆	地区委員会 委員長 山本 一夫 会計 川口 嘉久 (地区委員) (補佐委員) 浦頭 川口 嘉久 川口 秀子 浦口 一三 吉川 春子 大泊 梅木 征至 浜泊 浜崎 忍 川口 香 堂崎 山本 一夫 入口のぞみ 嵯峨瀬 谷口 英子 宮原 大楠 進 大楠 末子 半泊 宮川 喜一	典礼委員会 委員長 小田 哲也 副委員長 赤尾 克子 委員 本村 義則, 山本 一夫 浦口 一三, 浜崎 秀明, 荒木 善弘 浜口 幸隆, 浜崎 毅(聖歌) 浜崎 哲司, 鍋内 総長, 入口 明宏 鍋内 孝之, 木口 北斗, 赤尾 幸治 江口 初子, 川口 秀子	
経済問題委員会 (堂崎天主堂保存委員会) 委員長 鍋内 誠次 会計 木口 秀憲 小田 洋市 川口 孝章	シメオン・アンナ友の会 会長 入口 義則 副会長 浦 勝己 副会長 木口 マサ子 書記会計 鍋内 民子	広報委員会 委員長 竹山 要司 副委員長(島のひかり編集長) 木口 重憲 会計 赤尾 淳 委員 小田 洋市, 竹山 巧 木口 誠也, 入口 信 江口 初子, 田川小枝子	
壮年会 会長 入口 庄二 副会長 鍋内 孝之 書記会計 木口 誠也	福祉委員会 会長 鍋内 絹恵 副会長・会計 赤尾 栄	女性会 会長 崎 浜 静代 副会長 浜口 絹代 書記会計 竹山 妙子	

1865
2015

心の癒し

梅木 征至

三月十七日

「ワレナノムネ アナタノムネ トオナジ」と言って、浦上の信者さん達が、大浦天主堂のブチジャン神父を訪ねて信仰告白してから一五〇年。長崎大司教区では信徒発見一五〇周年の記念ミサが大浦、中町、浦上の三ヶ所の教会で二時間毎の連続ミサが行われる事になり、私達の教会でも早速、参加者を募り申し込む事になり、参加する機会を頂きました。出来れば信徒発見の大浦天主堂を希望でしたが、中町教会になりました。教会は、数多くの信者さん達で大変混雑するだろうと心配していましたが、受付けもなく、内部は教会ごとのプラカードもなく、浦頭教会貸切りのミサが岩崎主任司祭の司式で行われました。ミサの前に突然、「共同祈願の先唱をお願いします」と言われ

「ハッ！」としたが、「ジタバタ」してもはじまらない、自分で作る訳でなくパンフレットが用意してあるのだから、ゆっくり落着いて読むように心掛けました。又、中町教会の御聖体は普段頂いている御聖体と違い、真っ白で芯まで洗われた気分になりました。

ミサ後、フェリーの出発まで間があるので、「聖母展」が開かれていた長崎歴史博物館へ足を運ぶ事になりました。会場はガイドもなく、自分勝手に廻る事に!!

展示品は、遠くは東京国立博物館から、近くはお隣りの三井楽教会よりの物など、数多くの品々が展示されており、あれ、これは見覚えのあるようなと説明文を読んでいると、堂崎教会より貸出された物でした。堂崎教会もまんざらではないなあーと、内心ホクホクしながら帰路に着く事が出来ました。

信徒発見150周年
記念ミサにあずかって

赤尾 栄

三月十七日、浦頭小教区から約四十名の信徒と一緒に、中町教会で記念ミサに与かる事が出来ました。百五十年前、浦上のキリシタン達は、やっと待ちに待った神父様と会えるのではないかとこの期待と、自分達が待っていた教会ではないかもしれない、また何十年も待ち続けなければならぬのか、また迫害にあうのではないかと不安の中、大浦天主堂へ登って行った事でしょう。自分達が待ち続けた神父様である事が確信出来た時の喜びは、想像に絶します。ミサの間、教会もなく司祭のいない二百五十年の間、先人達が守り伝えた信仰を今、受け継いだ私は次代に伝える責任を果たさなければと深く考える一日となりました。帰りの船の中で、福江港に着くまで皆さんと喜びを分かち合い、楽しい一時を過ごす事が出来ました。

記念ミサに与って!!

赤尾 一美

小教区信徒四十名が絶好の日和に恵まれ、朝一便のフェリーに乗船。一路、長崎へ出発。到着後、軽く昼食を済ませ目的地である中町教会へ向かった。先ず庭園に昨日、除幕されたばかりの「聖トマス西と十五殉教者」を顕彰するブロンズ像が穏やかな表情で、優しく私たちにささやいてくれました。記念ミサがいよいよ始まり、他の教会からの信徒で堂内は一杯に?と思いきや、私たち中心に入祭の聖歌と共に、岩崎晋吾神父様の司式によってミサが行なわれた。一五〇年前に先人たちが「過酷な殉教に耐えながら、守り貫いた尊い信仰」を思い巡らしながら、今のわたしに何がと問う時、答えは何も返ってきませんでした。が、この光栄ある記念ミサに与る事が出来たことに大いに感謝し、日帰りの帰路についた。

堅信式を終えて

一月十八日、福江教会にて合同堅信式が行なわれました。

浦頭教会からも二名の中学生が堅信を受けました。

(以下、二人の文章)

「私は堅信を受けるにあたって、改めてたくさんの人に支えられ、見守られていることを実感しました。小学1年から中2までの長い間、けいこで教会のことなどについて色々教えて下さったシスターや神父様、私達受堅者のためにお祈りして下さった方々に、とても感謝しています。

また、信者として大人になったことを自覚して、これからもきちんとお祈りしていこうと思えました。

大浦 緋莉

僕は、堅信式を受け、大人の信者となることができました。いままでいろいろありましたが、支えてくださった方々、本当に

ありがとうございました。僕は、これから大人の信者として、神様の大切さ、人の命の大切さを知り、しっかりお祈りをしようと思います。

これからもよろしく願います。

鍋内 颯太

保護者代表あいさつ

鍋内 誠次

高見大司教様、聖務で大変ご多忙の中、一九名のために、堅信の秘跡を授けていただきましたことを、心よりお礼申し上げます。はじめは、緊張気味だった受堅者も、今は晴れやかで優しい顔になっていっているような気がいたします。本日、堅信の秘跡をうけた一人一人が、これから一人前の信徒として、主の証人として歩むことになります。これまで、教会学校学んできたこと、ご指導していただいたことは、この秘跡がゴールではなく、スタートだということを受堅者も、そして私たち保護者も、しっかりと認識しなければと思っ



ています。今年は、信徒発見一五〇周年の記念すべき恵みの年でもあります。祖先が、七代にもわたって守り継いできた信仰。

それは、神様の元へ・天国への熱い思いであり、凜とした親の背中がそこにあっただからだと思います。今の私には、強い背中を見せることはできませんが、少しでも近づくことができるよう、また、シノドスの答申にもあったように、教会から離れないように、離さないように共に祈っていかれたらと強く感じております。また、今日の日のために、これまでご指導いただいた各教区の神父様方・シスター方、

そして本日の秘跡をともお祈りして下さった信徒の皆様、本当にありがとうございます。これからも、受堅者の支えとなっていていただき、ご指導いただきませうようお願い申し上げます。最後になりましたが、高見大司教様、お体には十分留意なされ、今後ますますご活躍されますことをお祈り申し上げますが、誠に簡単ではございますが、保護者代表のお礼の挨拶とさせていただきます。

堅信式の思い出

思い出が定かではない。ただ、祭台から降りられ、その前方に立たれた松下神父様が厳かな声で質問を一つなされた。答えて、ほっとした感触が、今、ふっと心の中に置かれて消えた。

今と違って、昔のけいこや公共要理の勉強についてのSrや保護者のしっつけは、厳しかった。げんこつや大声の叱りは日常茶飯事。自分達が受け継いで来た信仰の灯りを消してはならない、その思いが連なって今がある。

祝 初聖体

幼かった子供たちがとうとう初聖体を迎えました。

岩崎神父様、田端園長先生をはじめ保育園の先生方、ここまで導いてくださり、ありがとうございます。

子供達は初聖体が近づくにつれ、期待と使命感からか、どんどん成長する姿を見ることができました。今日、子供たちはご聖体の味をうれしさと、ちょっぴり成長した大人の味として受け止めていると思います。四月になると小学生となり、教会ではけいこなどが始まります。これから神様をさらに身近に感じながら、生活していくと思いません。私たち親も、子供たちの鏡となるように努めてまいります。これからの子供達の成長を、みなさんで見守っていただけたらと思います。

保護者代表 鍋内 総長

歌を歌ったり、お祈りの練習をしたり、パンをいただく練習もいっぱいしました。

初聖体の日は、歌を歌うときはドキドキしました。ご聖体はおいしかったです。それから楽しかったです。

鍋内 翔吾

はっせいたいをうけて、とてもうれしかったです。それにございいたをいただいうれしかったです。これからもおいのりがんばります。よろしくお願いします。

あだ そうみ

初めてのご聖体はお祝いの味がして、とても美味しかったです。みんなから、「おめでとう。」と言ってもらって嬉しかったです。私も教会の勉強を頑張って、イエス様のようにやさしい人になりたいです。これからもみんなと一緒に、たくさんお祈りたいと思います。

木口 美海

移動信徒の集い

三月九日、新卒者を激励する会、『移動信徒の集い』が神羊館ホールにて催された。夢と希望と、少しばかりの不安とたくさんさんの開放感と…。それぞれがそれぞれの想いで、生まれ育った奥浦から巣立っていく。

今回の主役は、川口良平君、浦口千愛さん、濱辺 恵さんの三名である。岩崎神父様からお祝いの言葉があり「赴任された当初、中学三年生の彼らは教会奉仕に務めていた時期であり、いちばん係わりのあった学年でした。そのため旅立って行かれる事に寂しさを感じる。」と語られた。そのあとの神父様からの聖書のプレゼントに、思わず苦笑いの三人でした。会食の合間、新卒者より教会での思い出、今後の決意、抱負等を語ってもらった。高校生になっても、教会奉仕を頑張った千愛さんの涙ながらに語った姿がとても印

象的でした。御両親、役員の方々からは、「教会に行くように務める事」「たまには電話で声を聞かせる事」が共通の願いであったようです。これからは、自分で選んだ道を自分の力で歩んでいかななくてはなりません。今日、神父様、御両親、役員の方々に頂いた言葉を胸に、精一杯頑張ってきてほしいものです。

最後に、帰省した際は良平君には侍者を、千愛さんには答唱詩編を、恵さんには朗読をする様、神父様と固い約束をして二次会へ突入した模様です。



今年の黙想会

三月二十五日の夜から始まった黙想会。今年は大村の植松教会の紙崎神父様で、「キリスト教の教会からキリストの教会」について、聖書の中のとえ話をういて指導なさいました。

感謝のごとば 本村 義則

紙崎神父様、三日間に渡り、御指導いただきまして、有難うございます。心より感謝申し上げます。体調もすぐれない中に頑張っ下さいました。自己紹介から始まりましたが、まさか二つもあるとは思っていませんでした。御自身の体験を話しながら、聖書のことばから「主はいつも共にいて下さる」この事を感じて生きれるようにと話して下さいました。又、聖書は大切です。聖書の中の言葉「行って私と同じようにしなさい」等福祉につながる言葉が多くある事を教えていただきました。キリストは、私達を救うため

に十字架にかかりました。聖書の中に絵で書かれています。

もっと聖書を大切にしように教えて下さいました。神様のなさる事は、人間の常識とはか



け離れている事。聖書の中のタラントンの例えや、良きサマリア人の例え等をもって信仰の大切さ、キリストの教会について話して下さいました。

信仰のうすい私達ですが、弱い人、小さい人に対して、哀れみの心を持てるように、信仰を強めるように努力します。

最後に、神父様が健康に恵まれて、主の恵みが沢山ありますようにお祈りします。

岩崎神父様霊名のお祝い

二月二十二日、本当の五日の霊名のお祝い日とはかなり遅くなりましたが、岩崎神父様（聖パウロ三木）の霊名のお祝いを行いました。

例年通り祝賀式、祝賀会と二部構成で行い、祝賀会は子供たち、シスターも参加して頂きました。またまた例年通り、信仰教育委員会から神父様へのケーキは、神父様の手から子供たちへ渡り、子供たちの笑顔に包まれた会食となりました。



みなさん良い顔色になる中で、子供たちから歌の披露!!

ちらほら、「あら誰ん子供か?」と聞こえる中から、子供一人ずつ自己紹介が始まる。祖父母、父母の名前を覚えてもらったので、これで覚えてもらえるでしょう。

岩崎神父様より、「霊名を大切にして下さい。あなたたちを守っていただくさる」という言葉を聞き、さっそく自分の霊名の祝日を調べてみる。改めて、聖人をよく知る事から始めてみよう。

おたより

二〇一四年十一月三日で、障害者自立支援の家「聖マルティンの家」も、十五年のあゆみを続けることができたことを感謝致しました。この間、多くの方々の協力をうけましたが、浦頭教会から富上成美さんが、私の家にボランティアとして応援してくるようになり、本当に私の右腕として助けてもらっています。

そして、彼女を通して神父様のご理解と信徒の皆様の支援も受け、こうして私の家も細々とやって来れたこと、全て見えな一方の導きを感じます。皆様から応援も続けて下さいますようお願い致します。感謝を込めて。

ボリビア 野原

教会へ寄附

昨年、浦頭の出口健一さんより多額の御寄付を頂きました。遅くなったことをお詫びし、感謝申し上げます。

感謝

— 香典返し —

カトリック浦頭教会へ

中尾 キヌ様 平蔵

(亡夫 オグスチノ喜一)

右の方よりご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。(尚、これからは神父様が報告致しますので、島のひかりには掲載いたしません。)

人物往来

奥浦修道院

転出 ありがとうございます。

Sr 畑原 順子 長崎神学校

Sr 藤原眞都華

長崎本部修練院

転入 よろしく願います。

Sr 浜崎ツユ子

福江聖家族修道院

Sr 濱村智恵子

小江原修道院

秘

跡

《洗礼》

○マリア・マグダレナ

大西 ゆり

○マリア

真名子 香 (一月十一日)

|| 成人洗礼 ||

○マチルダ

坂口 恵子 (福江)

○幼きイエスのテレジア

鍋内千亜喜 (浦頭)

(四月四日)

《堅信》

○ペトロ

鍋内 颯太

○アグネス

大浦 緋莉 (一月十八日)

《帰天》

○大天使聖ミカエル

鍋内 生雄 (浦頭)

(三月十三日)



ありがとう

今回も皆様の御協力頂きありがとうございます。せっかく御芳志頂きながら、本紙への記載が遅れました方に、お詫び申し上げます。連休には、潮騒と教会の鐘の音の聞こえる、なつかしい地へおいで下さい。

大 泊 梅 木 征 至 様
 長崎市 片岡 神父 様
 八王子市 Sr 浜口 昌子 様
 東京都 崎 濱 神父 様
 福 江 下 口 神父 様
 佐世保市 今村 スマ子 様
 福 江 永 尾 マチエ 様
 名古屋市 浜村 政 春 様



神父様

三年越しのゴール
テープ切り達成!

やったぞう!

一月二十七日、穏やかな日射しのもと、神父様の健脚を競う恒例の司祭団マラソン大会が催されました。岩崎神父様の他、浦頭教会から木口重憲さん、聖マリア保育園の梅木有沙さんも出場。

岩崎神父様は、三年前は十位というなかなかの成績を上げられていましたが、多忙の中、練習不足がたたり、昨年は完走一步手前でリタイヤ。今回はリベンジを誓い、体力をつけて堂崎から発進!持ち前の笑顔をふりまきながら、最後はへとへとになりつつも、見事完走しました。



ふるさとだよ!

フリーマガジン



その名も、フリーふくえ。大泊の梅木征至さんの次女の尚美さんが、五島市の衣食住や観光等、旅行者にも五島市在住者にも、読んで見て楽しい雑誌を創刊しました。「あったらいいな!」という発想から生まれた本誌。カメラマン、デザイナーと手を携えながら、七〇〇部発行。年四回発刊めざし、いざ出帆。

歴史探訪ウオーク

三月十五日(日)五島市市制施行十周年記念イベント、「自然を歩こう、教会を歩こう」

島外からの方々も含め、総勢五十五名の方が参加されました。コースは2コースで、帰路は両コースとも海上タクシーで「大泊のマリア像」を船窓から眺め福江港へ。

- 堂崎探訪コース(9.5km)
- 半泊探訪コース(15.8km)

二十七日、朝八時、市役所を出発し、午後三時ごろ半泊教会へ到着。一年生の女の子も元気で完歩しました。



編集後記

赤尾 淳

野に山にサクラの花が今をさかりと咲き、教会では「出エジプト記」が朗読されるようになりますと、復活祭が近づいて来たようだと思う。私達カトリック信徒にとっては、一つの風物詩かもしれません。

二五〇年の潜伏の時を経て大浦の丘に建つ教会に、三月十七日に現われた信徒は、皆と一緒に御復活のお祝いをという、気運が働いたかもしれない真に勝手なイメージをかきたてられます。当時の神父が「東洋の奇跡」と伝えられてから一五〇年という節目の年に、私自身、信徒として迎えられたことに大いに意義あるものです。

また、近年では戦後七〇年も節目の年です。日本人として、社会として国として、総括すべき節目の年かもしれない。ちなみに私三〇才で何かをやめ何か始めて三〇年、節目の年!!です。